

# 相模原市

モデル圏域 相模原圏域

～流れを止めるな～

続・人と地域をつなぐ虹の架け橋構想

相模原市では、令和元年度から構築支援事業に参加し、医療・福祉・ピアサポーターとの協働による「にも包括」の取組を開始し、地域移行支援ピアサポーターの活用や支援者支援等の取組で効果を得た。この流れを止めることなく、特徴の異なる7つの地域（緑区・中央区・南区・津久井4地区）それぞれの特性を生かし、人と地域がつながる心の架け橋を目指して、昨年度に引き続き取組を行う。

1 県又は政令市の基礎情報

相模原市



取組内容

- ・R1年度より構築支援事業に参加。アドバイザー支援を受け、体制整備の検討を進めている。
- ・協議の場において、参加者の意見交換から支援者支援の必要性が確認され、職域別事例検討会を開催した。
- ・地域移行支援に特化したピアサポーターを養成し、精神科病院等における普及啓発活動を行った。
- ・相模原市措置入院者等の退院後支援マニュアルに基づき、事業を担当する専門班を設置し、個別支援を実施している。

基本情報（都道府県等情報）

障害保健福祉圏域数 (R3年4月時点)	1	か所
市町村数 (R3年4月時点)	1	市町村
人口 (R3年4月時点)	722,715	人
精神科病院の数 (R3年4月時点)	6	病院
精神科病床数 (R3年3月末時点)	961	床
入院精神障害者数 (R2年6月時点)	合計	1,039 人
	3か月未満 (%: 構成割合)	248 人 23.9 %
	3か月以上1年未満 (%: 構成割合)	193 人 18.6 %
	1年以上 (%: 構成割合)	598 人 57.6 %
	うち65歳未満	284 人
	うち65歳以上	314 人
退院率 (H29年6月時点)	入院後3か月時点	63.0 %
	入院後6か月時点	82.0 %
	入院後1年時点	91.0 %
相談支援事業所数 (R3年4月時点)	基幹相談支援センター数	1 か所
	一般相談支援事業所数	38 か所
	特定相談支援事業所数	54 か所
保健所数 (R3年4月時点)	1	か所
(自立支援) 協議会の開催頻度 (R2年度)	(自立支援) 協議会の開催頻度	2 回/年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況 (R3年4月時点)	都道府県	有・無
	障害保健福祉圏域	1 / 1
	市町村	1 / 1

## 2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

・相模原市では、長期入院している精神障害者への地域移行支援から始まり、広く誰もが住みやすい地域づくりに向け、当事者や関係機関と連携しながら、地域包括ケアシステムの構築を目指している。

### 1. 保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置

・H28年度に設置した「地域移行推進連絡会議」を協議の場として発展させ、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進連絡会議」を開催している。協議を重ねるなかで、支援者支援の必要性が明らかになり、訪問看護事業所や地域包括支援センターを対象とした事例検討会を開催するに至った。

### 2. ピアサポートの活用

・地域移行支援に特化したピアサポーターを養成し、精神科病院における普及啓発活動や、協議の場等で活躍している。

### 3.入院中の精神障害者の地域移行

・医療機関と相談支援事業所の連携により、個別給付を実施している。

### 4.措置入院者の退院後の医療等の継続支援

・平成30年4月に作成した「相模原市措置入院者等の退院後支援マニュアル」に基づき、事業を担当する専門班を設置し、個別支援を実施している。

## 2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

### 5. 精神障害者の家族支援

- ・統合失調症やうつ病等、疾患別の家族教室を各区等で開催している。

### 6. 精神障害者の地域移行関係職員に対する研修

- ・地域の支援機関や庁内関係課を対象として、地域移行支援や地域包括ケアシステムの構築推進のための研修会を開催している。

### 7. 包括ケアシステムの構築状況の評価

- ・ReMHRADを活用した地域診断、アンケート調査とあわせてニュースレター等で報告している。
- ・広域及び密着アドバイザーの協力を得て、本市の取組状況について評価を行っている。

### 8. 普及啓発

- ・市民を対象としたメンタルヘルス市民講座や地域共生社会活動などを開催している。

### 9. 障害・高齢・医療分野との連携

- ・全庁的な取組として、令和2年度に組織改編があり、「地域包括ケア推進部」が立ち上がった。このことにより、高齢と障害の組織の一元化が図られるとともに、包括ケアを意識した相互研修が盛んになっている。

- ・各区においてはネットワーク会議を開催し、現状や課題等、情報交換及び意見交換を実施している。

- ・また、高齢、訪問看護分野との事例検討会を開催し、地域包括ケアシステムのイメージの共有に努めている。

### 3 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

#### ○平成27年度～平成29年度

・停滞していた地域移行に関する取組を再開。精神科病院や相談支援事業者、関係機関等との意見交換を行い、今後の取組の方向性を検討した。翌年には地域移行連絡推進会議を設置し、地域移行に関する事例検討会、支援者向けの研修を実施し、精神障害者の地域移行に関する関心を高める取組を行った。

・また、630調査を活用し、1年以上の任意入院患者の調査を行い、退院阻害要因の把握に努めた。市内精神科病院において支援検討会議を開催し、長期入院患者の退院可能性について検討した。あわせて、地域移行支援に従事するピアサポーターの養成を開始。

#### ○平成30年度

- ・地域移行推進連絡会議を協議の場とした。
- ・地域移行支援ピアサポーターが、精神科病院にてメッセージ活動を行った。
- ・措置入院者等の退院後支援マニュアルを作成し、退院後支援計画に基づく個別支援を開始。

#### ○令和元年度

- ・構築支援事業に参加し、体制整備の検討を開始。
- ・訪問看護や高齢者支援センター等、分野別事例検討会を開催し、支援者支援を開始。

#### ○令和2年度

・アンケート調査やニュースレターの発行、地域移行支援ピアサポーターによる普及啓発動画の配信、ADとの意見交換会など、コロナ禍においても可能な取組を実施。その中で、にも包括の構築状況や地域特性、課題等を共有した。

## 4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築に資する取組の成果・効果

## ＜令和2年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R2年度当初)	実績値 (R2年度末)	具体的な成果・効果
①構築状況の評価の実施	検証の実施	検証の実施 ・協議の場1回 ・アンケート調査	・アンケート調査やニュースレターの発行などコロナ禍においても、流れを止めない工夫ができた。
②上記評価によって明らかになった課題についての検討、ビジョンの明確化	検証の実施	検証の実施	・支援者支援の必要性を継続して検討するとともに、アウトリーチ支援に関する期待、関心の高まりが確認できた。 ・ピアサポーターの活躍の場の確保など、具体的課題が明らかになった。



## 5 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた現時点における強みと課題

## 【特徴(強み)】

- ・従来から地域移行推進連絡会議が協議の場として機能しており、医療機関や地域の支援機関との顔の見える関係が構築されている。
- ・地域移行支援に特化したピアサポーターを養成し、精神科病院や入院患者にアプローチが可能となっている。
- ・措置入院者の退院後支援に取組み、行政・地域の支援者が一体となった支援体制の構築が図られている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
障害・高齢・医療分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成功事例を中心に共有する場を設け、連携に向けた意識を高める。</li> <li>・小集団による事例検討等の実績の積み重ねから、大きなうねりに繋げていく。</li> </ul>	行政	ニーズ調査、事例を共有する場の開催、措置入院者退院後支援
		医療	事例を共有する場への参加、協力
		福祉	事例を共有する場への参加、協力
		その他関係機関・住民等	事例を共有する場への参加、協力
地域移行支援ピアサポーターの活躍の場の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者等に対する、普及啓発の場を設ける。</li> <li>・状況を見ながら、地域移行に関する近隣他市精神科病院への働きかけを開始する。</li> </ul>	行政	支援機関、精神科病院への働きかけ
		医療	ピアサポーター活動の受入れ、協力
		福祉	ピアサポーター活動の受入れ、協力
		その他関係機関・住民等	ピアサポーター活動の受入れ、協力

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和3年度末)	見込んでいる成果・効果
①連携に向けた成功事例を共有する場の確保	0	2	多機関連携に向けた意識の向上
②近隣他市精神科病院への働きかけ	未実施	実施	ピアサポーター活動の普及・拡大、地域移行の促進
③			

## 6 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の取組スケジュール

時期(月)	実施する項目	実施する内容
R3年中	支援者向け研修の実施	・アウトリーチをテーマにした研修会を開催し、事例を通じた多機関協働、連携のイメージを共有する。
R3年10月頃	取組状況の評価	・ReMHRAD等のデータ及び地域のネットワーク会議等から地域診断を行い、地域課題や強みを明らかにする。
R3年中	連携を目的とした事例検討会議の開催	・障害、高齢、医療分野において、成功事例を題材とした小集団の事例検討会を開催し、連携に向けた意識を高める。
	他市精神科病院への働きかけ	・長期入院患者の実態把握、ピアサポーターによる普及啓発活動の可能性の検討
	ピアサポーターによる普及啓発	・研修の場等において、ピアサポーターによる普及啓発を行う。
R4年2月以降	「相模原市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築の推進連絡会議」の開催	・取組状況及びその評価結果等をベースに、相模原市における「にも包括」のあり方について、協議を重ねる。



## モデル圏域から自治体全体への展開に向けた方針

### 自治体全体への展開に向けた方向性

これまでの市域全体を対象とした取組から、各区（緑区・中央区・南区・津久井4地区）の地域特性に応じた取組に落とし込み、各区の実情に応じた、より身近で実践的な連携体制の構築を目指す。

各区の実践から見えてきた課題や効果的な取組を市全体へと般化させ、誰もが実践しやすい「にも包括」の構築へつなげる。

また、庁内においても「地域包括ケアシステム」に関する機運が高まっており、こうした流れを的確に捉え、協働・連携の実現を目指す。

### <自治体全体への展開に向けた具体的な取組方針>

#### 1年目（令和3年度）

#### 障害・高齢・医療分野との 連携の強化

- ・成功事例を共有し、連携に対する意識を高め、つながりを強化していく。
- ・地域連携における本市の課題や強みを明らかにする。

#### 2年目（令和4年度）

#### 連携体制の整備

- ・これまでの取組を評価し、地域の実情に応じた連携体制について検討する。
- ・区単位での連携体制について、整備を進める。

#### 3年目（令和5年度）

#### 連携体制の検証と見直し

- ・区単位での取組について評価を行い、課題に応じた連携体制について検討し、市全体の取組へと般化する。

# 相模原市

## 相模原圏域

～流れを止めるな～

### 続・人と地域をつなぐ虹の架け橋構想

相模原市では、令和元年度から構築支援事業に参加し、医療・福祉・ピアサポーターとの協働による「にも包括」の取組を開始し、地域移行支援ピアサポーターの活用や支援者支援等の取組で効果を得た。この流れを止めることなく、特徴の異なる7つの地域（緑区・中央区・南区・津久井4地区）それぞれの特性を生かし、人と地域がつながる心の架け橋を目指して、新たな取組を開始する。

## 1 圏域の基礎情報

## 基本情報

障害保健福祉圏域数（R3年4月時点）		1		か所
市町村数（R3年4月時点）		1		市町村
人口（R3年4月時点）		722,715		人
精神科病院の数（R3年4月時点）		6		病院
精神科病床数（R3年3月末時点）		961		床
入院精神障害者数 （R2年6月時点）	合計	1,039		人
	3か月未満（％：構成割合）	248		人
		23.9		％
	3か月以上1年未満 （％：構成割合）	193		人
		18.6		％
	1年以上（％：構成割合）	598		人
		57.6		％
うち65歳未満		284		人
	うち65歳以上	314		人
退院率（H29年6月時点）	入院後3か月時点	63.0		％
	入院後6か月時点	82.0		％
	入院後1年時点	91.0		％
相談支援事業所数 （R3年4月時点）	基幹相談支援センター数	1		か所
	一般相談支援事業所数	38		か所
	特定相談支援事業所数	54		か所
保健所数（R3年4月時点）		1		か所
（自立支援）協議会の開催頻度（R2年度）	（自立支援）協議会の開催頻度	2		回／年
	精神領域に関する議論を行う部会の有無	有・無		
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況（R3年4月時点）	都道府県	有・無		か所
	障害保健福祉圏域	有・無	1 / 1	か所／障害圏域数
	市町村	有・無	1 / 1	か所／市町村数

## 2 精神障害にも対応した地域包括ケアの構築支援事業 実施前の課題・実施後の効果等

### ＜令和2年度までの成果・効果＞

課題解決の達成度を測る指標	目標値 (R2年度当初)	実績値 (R2年度末)	具体的な成果・効果
①構築状況の評価の実施	検証の実施	検証の実施 ・協議の場1回 ・アンケート調査	・アンケート調査やニュースレターの発行などコロナ禍においても、流れを止めない工夫ができた。
②上記評価によって明らかになった課題についての検討、ビジョンの明確化	検証の実施	検証の実施	・支援者支援の必要性を継続して検討するとともに、アウトリーチ支援に関する期待、関心の高まりを確保できた。 ・ピアサポーターの活躍の場の確保など、具体的課題が明らかになった。

## 3 圏域の強みと課題

## 【特徴(強み)】

- ・従来から地域移行推進連絡会議が協議の場として機能しており、医療機関や地域の支援機関との顔の見える関係が構築されている。
- ・地域移行支援に特化したピアサポーターを養成し、精神科病院や入院患者にアプローチが可能となっている。
- ・措置入院者の退院後支援に取組み、行政・地域の支援者が一体となった支援体制の構築が図られている。

課題	課題解決に向けた取組方針	課題・方針に対する役割(取組)	
障害・高齢・医療分野との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成功事例を中心に共有する場を設け、連携に向けた意識を高める。</li> <li>・小集団による事例検討等の実績の積み重ねから、大きなうねりに繋げていく。</li> </ul>	行政	ニーズ調査、事例を共有する場の開催、措置入院者退院後支援
		医療	事例を共有する場への参加、協力
		福祉	事例を共有する場への参加、協力
		その他関係機関・住民等	事例を共有する場への参加、協力
地域移行支援ピアサポーターの活躍の場の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者等に対する、普及啓発の場を設ける。</li> <li>・状況を見ながら、地域移行に関する近隣他市精神科病院への働きかけを開始する。</li> </ul>	行政	支援機関、精神科病院への働きかけ
		医療	ピアサポーター活動の受入れ、協力
		福祉	ピアサポーター活動の受入れ、協力
		その他関係機関・住民等	ピアサポーター活動の受入れ、協力

課題解決の達成度を測る指標	現状値 (今年度当初)	目標値 (令和2年度末)	見込んでいる成果・効果
①連携に向けた成功事例を共有する場の確保	0	2	多機関連携に向けた意識の向上
②近隣他市精神科病院への働きかけ	未実施	実施	ピアサポーター活動の普及・拡大、地域移行の促進
③			

## 4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた今年度の特別に考える必要がある事項について

考えられる事項	想定される次期 (方向性判断の必要性が 考えられる次期)	実施する内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議の場の開催延期、中止</li>   <li>・地域移行における病院訪問のしづらさ</li> </ul>	<p>状況をみながら</p>	<p>(昨年度は)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議の場の代替として、構成員に対してアンケート調査を実施し、現状と課題の把握。年度内の開催が困難であれば、ニュースレター等で調査結果及び進捗状況を発信。</li>   <li>・地域移行に関する普及啓発動画(DVD)を希望に応じて配布するなど、医療機関との繋がりを維持する。</li> </ul>